

ねっとわーく厚生

5
vol.
2008.4
財団法人山梨厚生会
山梨厚生病院



【院内保育所「親子の集い（H20.2.24）」】

- 新年度（平成20年度）をむかえて
 - 千葉院長 …… 新年度・病院運営方針について
 - 土橋事務長 …… 新年度・職員に期待するもの
- 各科だより …… 呼吸器心臓血管外科・脳神経外科
- 病棟紹介 …… 2-4A病棟・2-4B病棟
- 放射線科から
- ニューフェイス紹介
- その他 …… 教育委員会からお知らせ



■ 編集・発行 ■

山梨厚生病院 広報委員会
TEL 0553-23-1311
URL <http://www.kosei.jp/>

新年度をむかえて

院長 千葉成宏



新しい年度を向かえて、これからの医療がどうなっていくのか不安に思っています。少子高齢化が進むなかで、昭和57年から行なわれてきた「老人保健法」に代わって、本年4月1日から「後期高齢者医療制度」がはじまりました。福田総理大臣が通称を「長寿医療制度」と命名したことも報じられていましたが、75歳以上の高齢者にとってはなかなか厳しいものとなっています。

これまで、家族の保険の被扶養者になっていた方も含めて全ての対象者から保険料が徴収されます。基本的に年金支給がある方は、月額平均6千円が年金から天引きされることとなり、先の介護保険料と併せると月1万円ほどの負担となります。また、病院や診療所（医院）で診療を受けた時の医療費の自己負担はこれまでどおり1割負担ですが、出来高払いか包括払いが選択されるようになって必要十分な医療を行うことに抑制的になることも懸念されます。国は医療費の削減が目的と明言しておりますが、私は、高齢者に対しては国民全体で支えようという姿勢がもっと必要ではないかと感じています。さらに平成19年から施行された第5次改正医療法により、「医療の方向性が医学的最適性から経済的最適性にシフトされる」という批判も聞かれます。

昨年4月に「医療機能情報提供制度」というものが施行され、どの病院ではどんな医療が受けられるのか、一般の方にも分かるよう情報を提供していこうという試みが始まりました。山梨県でも今年度から病院ごとの医療・診療機能が公表されることになっています。そのようなこともあって、今年度の病院運営目標の一つとして、診療機能の整備・充実を掲げました。今、医師・看護師不足が深刻になっていますので、先ず人材を確保することを最優先したいと考えます。その上で、医療安全の強化や快適な療養環境の提供などが実現していくものと思います。地域の皆様のご支援をいただきながら、より質の高い病院、皆様に愛される病院を実現していきたいと考えております。

事務長 土橋利男



今、医療を取り巻く環境は非常に厳しい状況です。しかしながら私達は、医療の質の向上と安全の確保、及び病院経営の基盤の充実に努め、患者様が真に求める医療に対応できる医療環境を常に整備しておく必要があります。

そのためには職員一人一人が、「今、何を病院は求められているのか」「今、自分に与えられた職責は」「今、自分は何をすべきか」を早く気付くことが大切だと思います。

院長より「平成20年度病院運営目標」が示されました。この目標に向かって、私達はそれぞれの立場で何をすべきかを考え、活動計画を立て、これを実践し、振り向いて検証していく義務と責任があります。全職員がこの目標に向かってベクトルを合わせていかなければなりません。職員にとって良い職場が患者様にとっても良い病院であるとの考えの下、皆で力をあわせ働きやすい職場にするための環境を作っていきましょう。そのために私は次の4つの基本を皆さんにお願いします。

- 1) 「挨拶を励行してください。」挨拶は、人と人とのコミュニケーションの基本です。
- 2) 「接遇ということを常に考えてください。」貴方のなにげない一言が、不安な精神状態にある患者様を傷つけているかもしれません。
- 3) 「プロフェッショナルとしての技術を磨いてください。」確かな技術こそが患者様を、しいては自分自身を救うことになります。
- 4) 「チームワークを大切にしてください。」一人一人が持っている力をあわせることで大きな力が生まれ、何倍もの仕事が可能になると思います。

呼吸器心臓血管外科を紹介します

呼吸器心臓血管外科部長 橋本良一

当院の呼吸器心臓血管外科では、肺・縦隔・胸壁などの手術を行う呼吸器外科と心臓・血管の手術を行う心臓血管外科の領域を扱っています。これらの科は別になっている病院も多いのですが、お互いが大変関係深い臓器のため、当院のように一つの科で診療している施設も少なくありません。

主な病気には、**呼吸器外科領域**として「肺癌」、「縦隔腫瘍」、「気胸」、「膿胸」、「胸部外傷」など、**心臓血管外科領域**として「狭心症」、「心臓弁膜症」、「胸部・腹部大動脈瘤」、「下肢動脈閉塞症」、「下肢静脈瘤」などがあります。

担当の医師は4名で、呼吸器外科領域を橋本、心臓外科領域を有泉、血管外科領域を伊従、病棟治療全般を神谷(山梨大学より出向)がそれぞれ中心になり診療していますが、常に全員で相談の上、協力してグループ診療を行っています。また最近では高齢化に伴い一つの病気だけでなく色々な病気が合併している場合も多いため、他科の医師との密接な連携が必要となっています。さらに当科の手術は、術後管理に労力の多くを必要とすることが多く、担当病棟である2-4A病棟の看護師の努力に大きく依存しています。心臓の手術後では、1～2日間は集中治療室で付ききりで目を離さず管理が必要ですし、最近多い高齢者の肺の手術後では肺炎予防のための排痰補助に大変手間がかかります。また、下肢動脈閉塞症では壊死創を伴うことも多く、長期間にわたり一日に何度もガーゼ交換を行う場合もあります。このような看護には専門的な能力が必要で、看護スタッフには常に最新の知識を勉強しつつ頑張ってもらっています。また術後疼痛管理を専門家である麻酔科医師に依頼すると共に、理学療法士に病室へ出向いてもらい積極的な術後早期リハビリテーションを実行しています。これにより早期離床が実現し術後の合併症も減少しています。

当科では救命のための大手術・緊急手術も多いのですが、少しでも患者さんに苦痛を与えないことをモットーに、多くの科や部署の協力を得て日々努力をしています。ご本人やご家族と相談の上、手術以外の治療も含めて検討し、可能な限りご要望に沿うような医療を提供いたしますので気軽にご相談ください。

【呼吸器心臓血管外科外来スタッフ】



左上から

- ・神谷健太郎(医師)
- ・有泉 憲史(医師：医長)
- ・橋本 良一(医師：診療部長)
- ・伊従 敬二(医師：医長)

左下から

- ・勝俣 優子(クラーク)
- ・筒井多津枝(准看護師)

脳神経外科を紹介します。

脳神経外科部長 青木 伸夫

当科の常勤医師は、私、青木と内布医師、浪岡医師（4月1日着任）の3名です。その他に、東京女子医科大学から派遣の非常勤医師、谷藤医師、中島医師が火曜日と木曜日の診察を担当しています。

《脳神経外科の仕事》

脳神経外科の主な仕事の一つが頭の手術を行うことであるのは、皆さんよくご存知のことと思います。一般病院の脳神経外科で実際に扱うことが多い手術は、脳卒中・頭部外傷・脳腫瘍の手術などですが、私達の仕事は、これら手術ばかりではありません。実際に行っている仕事を多い順に上げますと、

- ・脳卒中を診断し、手術治療あるいは点滴などの内科的治療、リハビリテーションの導入を含めた脳卒中急性期全般の治療を計画、実行する事
- ・救急治療からリハビリテーションの導入までに至る頭部外傷急性期全般の治療を計画、実行する事
- ・脳腫瘍を診断し、それに対して手術治療を行い、加えて放射線治療・化学療法（抗がん剤治療）の判断と場合によっては、適切な専門施設への紹介を計画、実行する事
- ・顔面の痙攣や神経痛の薬物療法や手術治療
- ・髄膜炎等の脳の感染症診断と治療（通常、主に点滴による治療）
- ・テンカンに対する薬物治療（必要なら、手術治療を行う専門施設への紹介）

以上の他、頸椎（首の骨）のヘルニア・変性疾患、および脊髄の腫瘍にも対応しています。

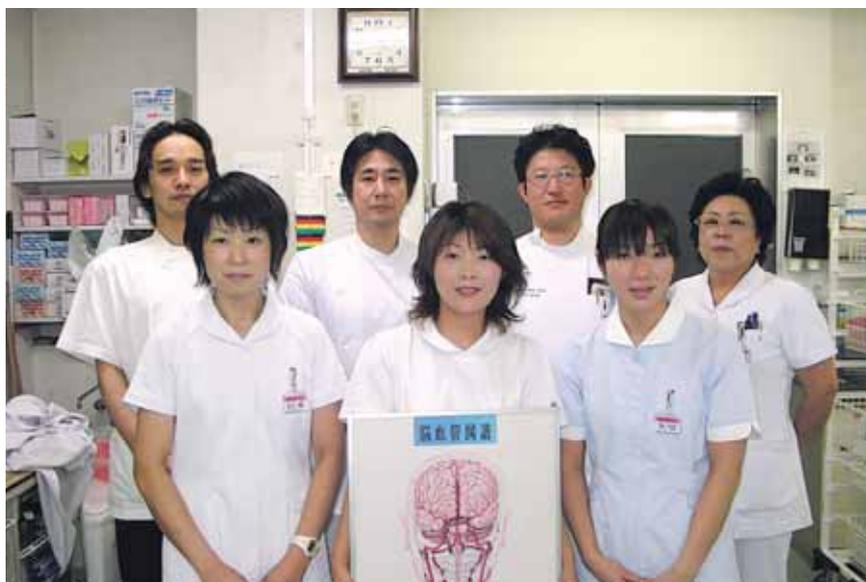
《どの様な症状があったら脳神経外科を受診するか》

実際に外来で診察させていただく症状としては、「頭部外傷」「意識障害」「顔面・身体の麻痺やしびれ」「言語障害」「頭痛」「顔面のケイレンや痛み」「テンカン発作」に加え、一部の目まい・ふらつきや聴力・視力視野障害、認知症状などです。

《私達が力を入れていること》

実際の診療で力を入れているのは、脳卒中治療と脳腫瘍治療です。脳卒中は、国も重要視し力を入れている疾病の一つです。当院では、近年話題となっている超急性期（発症3時間以内）の脳梗塞の薬（t-PA）による治療や、地域のリハビリテーション病院との連携にも積極的に対応しています。脳腫瘍では、特に良性腫瘍に対し最新鋭の手術ナビゲーションシステムを用いた精密な手術治療に力を入れています。

【脳神経外科外来スタッフ】



スタッフ紹介（左から）

- ・岡見 修哉（医師・H20.3/31 退職）
- ・鈴木登志美（看護師）
- ・内布 英昭（医師；医長）
- ・進藤きよ美（看護師）
- ・青木 伸夫（医師；診療部長）
- ・大柴 美咲（クラーク）
- ・矢崎はる美（外来師長）

*H20.4月1日より

浪岡 隆洋医師が着任されました。

こんにちは2-4病棟です

心と技術のそなわった看護を目指しています!

2-4A病棟 副看護師長 河村 加奈子

当病棟はHCU3床を有する18床の、呼吸器、心臓血管外科病棟です。主に心大血管・腹部から末梢血管(動脈・静脈)・呼吸器疾患に対する手術患者様のケアを行っています。心臓、肺という生命維持には欠かせない臓器の手術を目的とした患者様が入院される為、日々、生命の尊さを間近に感じ、患者様が回復するまでの間、一家族のような思いで看護させていただいています。看護師 8名と少人数の病棟ですが、急性心筋梗塞、解離性大動脈瘤等の緊急手術にも対応し、「やさしく、親切、ていねいに」をモットーに、的確な看護技術の修得と、明るくそして心穏やかに休めるような療養環境の提供に心掛けています。これからも患者様、御家族の方々に満足して頂けるよう努力してまいります。

厚生会NO1のチームワークを目指して!元気ハツラツ

2-4B病棟 看護師長 新井 やすよ

当病棟は34床の脳外科病棟で、看護スタッフ20名が日々心をこめて患者様の入院生活のお世話をさせていただいています。NCU / SCU (脳外科専門治療室)でのt-PA 治療等の超急性期看護から、社会復帰に向けての回復期まで、各時期に応じた看護を展開しています。

病棟目標として☆脳外科疾患の専門性を生かした看護実践 ☆活発な意見交換ができる職場作り ☆快適な入院環境の提供を掲げ、『やさしく・親切・ていねいに』を根本に、頼もしいDrを柱にチームワークのよさを発揮しています。明るく!元気に!!爽やかな!!!桜梅桃梨の美女軍団=看護スタッフはこれからも頑張ります。

【2-4Aスタッフ】



【2-4Bスタッフ】



▲左から

- ・渡辺 珠希 (看護師)
- ・河野 綾子 ()
- ・岡 みどり ()
- ・河村加奈子 (副師長)
- ・小池 香織 (看護師)
- ・高見澤真樹 ()
- ・名取三千代 (主任)

【2-4Bスタッフ】



▲左から

- ・牛山 志保 (看護師)
- ・竹井 照美 (看護助手)
- ・矢崎 由美 (事務)
- ・前田 里江 (准看護師)
- ・藤巻 愛子 (看護師)

左上から ・網野益美(主任)・三石沙弥香(看護師)・古屋恵美子(看護師)・岡澤淳子(看護師)
・渡辺さやか(看護師)・名取幸子(看護師)・古屋一三(准看護師)・小林由香里(看護師)

左下から ・雨宮香代(看護師)・田草川郁重(看護師)・新井やすよ(師長)・吉岡典子(主任)・後藤まゆみ(看護師)

放射線科から

放射線室 技師長 精進義人

当院の放射線科は現在、伊藤敦子医師（放射線科専門医）のもと、診療放射線技師 10 名、看護職 1 名、事務職 1 名の計 13 名で最新の装置、技術を駆使し、臨床に不可欠な画像情報を精密かつ正確に提供するために日々努力しています。

胸部や骨の写真でお馴染みのX線撮影の他に、広い範囲を「速く・細かく」撮影出来るMDCT（マルチディテクターCT）を導入し、一回の撮影で体幹部から四肢までを細かく撮影出来るようになりました。また、これによる検査時間の短縮で患者様の負担も大幅に軽減されています。造影剤を急速注入して肝臓や血管などを細かく撮影したり、微細な骨折や肺の陰影を見やすくする為に画像を再構成し、立体映像化（3D化）することも可能です。

この他には、磁力を用いてCTとは違ったいろいろな方向から画像情報を得ることが出来るMR検査、X線で透視をしながら行うX線TV検査、骨年齢を測定する骨密度検査、乳がんの診断に役立つマンモグラフィ検査、心筋梗塞・脳動脈瘤・肝臓・四肢などの精密検査や治療をする血管撮影検査などを行っています。

病院内の全ての科と連携し、診断に必要な写真や画像を検査終了後直ちに放射線科専門医が読影して、結果報告書とともに主治医のもとへ届けます。その他、当科では地域の病院・医院などからの依頼により、CT・MRIの検査と結果報告を行ったり、また、健診車に同乗し地域の皆様の所へ直接うかがい、胃部検診やマンモグラフィ検診などを行う健診業務も担当しています。

情報技術の進歩とともに画像診断の重要性が増しており、時間外の緊急検査にも24時間体制で対応していますが、なによりも患者様に安心して検査を受けていただく為に、病院理念である「やさしく・親切・ていねいに」を常に念頭におき、被ばくの低減、事故0を目指し業務を行っています。

【放射線室スタッフ】



- 左上から ・八巻由佳(事務)・町田順市(技師)
・伊藤敦子(医師)・藤原智教(技師)
・天野和茂(技師)・浅葉一正(技師)
・縄重 亨(主任技師)・根津達也(技師)
・前田雄一(技師)
- 左下から ・野沢朝子(准看護師)・精進義人(技師長)
・小澤香里(技師)・前田由紀(技師)

【MDCT】



【血管撮影装置】



新入職員紹介 ～よろしくお願ひします!～

今年度、山梨厚生会には31名の新人が入職しました。

4月1日の入所式で配属先が発表され、早速、皆、期待に胸を膨らませ各所属に着任しました。

【看護部門】



向って左上より（配属先：出身校）

服部早紀（健診部：県立看護大学）

～患者様のニーズに応えられるよう精一杯努めます。

井上奈未子（塩山市民 HP：県立看護大学）

～明るく、元気に頑張りたいと思います。

幕内和美（塩山市民 HP：帝京山梨看護専門学校）

～挨拶・言葉遣いなど初心を忘れずに頑張ります。

小林千純（2-4A 病棟：県立看護短期大学）

～患者様を大切に出来る看護師を目指します。

河西しのぶ（2-3病棟：帝京山梨看護専門学校）

～少しでも患者様のお役に立てるよう頑張ります。

小池拓郎（2-3病棟：甲府看護専門学校）

～今のこの初心を忘れることなく頑張ります。

向って左下より（配属先：出身校）

村松ゆかり（2-2病棟：甲府看護専門学校） →

～病院理念・基本方針そしてなにより笑顔忘れずに!

金山紗弓（1-4病棟：帝京山梨看護専門学校）

～一日も早く一人前の看護師になれるよう頑張ります。

三枝 愛（1-3病棟：共立高等看護学院）

～患者様を第一に考えた看護を実践したい。

奥山寛美（1-4病棟：甲府看護専門学校）

～信頼される看護師を目指し日々努力します。

【技術部門】



向って左上より（配属先：出身校）

桑原宏和（PS 作業療法室：帝京医療福祉専門学校）

～日々の積み重ねを大切に、成長していきたい。

精進智規（塩山市民 HP リハ室：健康科学大学）

～努力と精一杯の頑張りよろしくお願ひします。

堀内美樹（リハビリ室：健康科学大学）

～患者様一人一人とのかかわりを大切に前進します。

高山幸三（リハビリ室：臨床福祉専門学校）

～毎日、楽しく仕事ができるよう努力します。

雨宮史樹（リハビリ室：健康科学大学）

～明るい笑顔、信頼される理学療法士を目指します。

野澤昇平（リハビリ室：健康科学大学）

～常に笑顔、常に努力を忘れません!

向って左下より（配属先：出身校）

小倉麻由（塩山市民 HP 薬局：千葉大学） →

～皆さんに信頼され、親しまれる薬剤師を目指します。

曾根祐也（塩山市民 HP4F 病棟：帝京医療福祉専門学校）

～責任を持って仕事に取り組み、信頼される職員となる。

横瀬加奈（塩山市民 HP4F 病棟：織田福祉専門学校）

～常に笑顔絶やさず、先輩方のようにになりたい。

相川奈奈江（薬局：帝京大学）

～様々な経験をし、薬剤師として多くの事を学びたい。

中村ひろみ（塩山市民 HP4F 病棟：帝京医療福祉専門学校）

～一日も早く業務を覚え、笑顔で頑張り成長したい。

【事務部門】



向って左上より（配属先：出身校）

小林春香（外来：甲府医療秘書学院）

～患者様に親しみを持たれるクラークを目指します。

藤田友美（外来：甲府医療秘書学院）

～誰からも親しみを持たれるクラークになりたい。

雨宮久美子（外来：甲府医療秘書学院）

～前向きな努力と親しみのある笑顔で頑張ります。

糸井沙知（医事部：甲府医療秘書学院）

～質の高い医療の提供に貢献できるよう頑張ります。

藤原のぞみ（医事部：駒沢大学）

～日々進歩して、信頼感を持たれる人を目指します。

向って左下より（配属先：出身校）

佐野麻美（外来：甲府医療秘書学院）

→

～1日も早く業務になれ、患者様のお役に立ちたい！

廣野彬恵（健診部：山梨大学）

～毎日、笑顔を忘れずに元気よく頑張ります。

岸本彩花（健診部：大原簿記法律専門学校）

～明るく、元気ハツラツに仕事をしていきます。

関口由加里（医事部：甲府医療秘書学院）

～明るく笑顔で！！ 親切な対応を心がけます。

久保寺裕美（健診部：甲府医療秘書学院）

～笑顔を忘れず、全力投球で頑張ります。

～「教育委員会」からのお知らせ～

「おはようございます」「こんにちは」～ 今日、あなたとあなたが会った職員は、笑顔で挨拶が出来ていたでしょうか？

当院の教育委員会は、7年前から浅川副院長、精神科：佐藤部長を中心として、各部署の代表が集い学術部門と接遇部門の両部門で教育・啓蒙活動をしています。

「学術部門」では、旬の話題を中心に提起し、年に2回の勉強会を企画しています。基本的な構成は、1回は院外の講師を招き、もう1回は院内の様々な部署から選ばれた職員が集まって発表しあうパネルディスカッション形式をとっています。昨年は「医療訴訟」と「メタボリックシンドローム」をテーマとしました。今年度は、6月12日に「がん診療連携拠点病院・緩和ケアチーム・がん登録等」について学ぶ予定です。どんな機能が求められているのか再確認し、今の当院に足りないところを明確にして、さらにステップアップできるように知識と意欲を高めるお役に立ちたいと思います。

また、職員が学会などに出席して、どんな研究発表をしているか、院内でどんな勉強会が行なわれているかを集計して年報を作成しています。

「接遇部門」では、感じの良い挨拶・身だしなみ・視線を合わせたコミュニケーション・わかりやすい言葉と表現・適切な声の大きさ話す速さ・電話の対応等々、医療の知識や技術以外にも大切なことが沢山あることを忘れないように、定期的な研修会を企画・運営しています。今年度は、秋頃に「もう一度、コミュニケーションの基本」という題で外部の講師（山梨大学教育人間科学部准教授 栗田真司先生）に講演をしていただくことになっています。

厚生会・厚生病院の職員の対応は、初夏の風のように気持ちが良いと全ての人に感じてもらえたら、こんな素晴らしいことはありません。是非奮って参加をお願いします。

教育委員会 薬袋 貴美

ご意見、自主投稿をお待ちしています。次号は平成20年11月発行の予定です。